

資 料

(1) 西東京市子ども福祉審議会委員名簿

平成 18 年 7 月 25 日現在

氏 名	選 出 区 分	備考
いはら ひでひこ 猪原 英彦	人権擁護委員	
うめむら きよら 梅村 浄	西東京市医師会代表	副会長
えびさわ けんいち 海老沢 憲一	西東京市私立保育園長代表	
さいとう のぶちか 齋藤 喜親	西東京市医師会代表	
さかた のりゆき 坂田 紀行	東京都立田無養護学校校長	
しみず ふみこ 清水 文子	西東京市社会福祉協議会代表	
かみやま まさあき 神山 政明	西東京市立小学校長代表	
ふるかわ ゆうこ 古川 祐子	西東京市主任児童委員	
まつざわ ゆういち 松沢 雄一	東京都小平児童相談所	
むらまつ ともこ 村松 偕子	西東京市私立幼稚園長代表	
もりた あけみ 森田 明美	大学教授	会長
やまぐち くみこ 山口 久美子	東京都多摩小平保健所	

専門委員(子育て・子育てワイワイプランの見直しについて)

なかむら せいこ 中村 聖子	公募市民	
なかむら みやこ 中村 美也子	公募市民	

(2) 計画見直しの経過

< 市民懇談会の実施 >

各層の市民の方々に、西東京市子育て・子育てワイワイプラン（子育て支援計画）について幅広く意見を聞くとともに、子育て家庭の現状や要望を聴取する機会を設けました。

回数	開催日			会場	参加者	対象	備考	
	年	月	日					
第1回	平成 18年	8	23	水	イングビル会議室	10名	子育てサークル保護者	
第2回		8	24	木	母子保健センター (3・4か月健診)	48名	乳児の保護者	
第3回		8	29	火	田無庁舎 会議室	1名	母子家庭の保護者 (シングルマザーズ・フォーラム代表者)	
第4回		8	30	水	ピッコロハウス (コール田無3階)	20~ 30名	3歳未満児の保護者	
第5回		9	1	金	こどもの発達センター 「ひいらぎ」	18名	ひいらぎ通園児の保護者	
第6回		9	4	月	田無庁舎 会議室	13名	幼稚園園長会	
第7回		9	5	火	なかまち保育園 (地域子育て支援センター)	15名	0～就学前児の保護者	
第8回		9	7	木	ひなぎく幼稚園	15名	幼稚園在園児の保護者	
第9回		9	7	木	谷戸第二小学校	30名	小学生保護者	
第10回		9	11	月	保谷保健福祉総合センター	28名	妊娠時の母親 (母親学級参加者)	
第11回		9	27	水	なかまち保育園	48名	保育園在園児の保護者	
第12回		10	11	水	田無庁舎 会議室	5人	学童クラブ保護者	
第13回		10	21	土	上向台小学校	60名	小学生保護者	
第14回		10	21	土	コール田無 会議室	4人	子育て中の父親(公開募集)	
その他	社会福祉協議会アンケート結果						小学生対象	
その他	青少年問題協議会の提言						青少年問題協議会	

< 子ども福祉審議会における審議経過 >

開催日	審議内容	傍聴
平成18年5月16日	子育て・子育てワイワイプランの見直しについて(諮問)	
平成18年7月25日	子育て支援計画見直しの方法について	2名
平成18年11月7日	市民懇談会の結果について 中期計画への視点について	
平成18年12月12日	答申(案)について 各課ヒアリングの結果について	

(3) 子育て・子育てワイワイプラン 施策評価表 基本方針<1>子ども参加

施策NO.	事業名(施策項目)	対象者	感想・評価	利用度 (使いやすさ)	地域カバー度	情報到達度 (認知度)	企画・運営への参加度			その他	市民委員・審議会 コメント	今後の方向性
							子ども	保護者	地域市民			
1-1	1-1-1 子どもの生活状況											
子どもの権利の 尊重	特色ある児童館 事業への変革	子育てサークル	可能であればサークル活動として児童館活用を希望		地域差あり		なし	なし	なし	親として手伝いできることはしたい。その意思が伝わればいいのでは？運営に対する意見が通るシステムを(森田)	児童館の乳幼児向けのイベントは毎月あり、市報にもスケジュールがのることから、利用者が多い。同じように、青少年向けのイベントもルーティン化して、広報にのせる形をとると良いのでは、月に1度のイベントに行く事で、足を運び易くなり、中高生の居場所が確保できるのではないか。	(重)特色ある児童館事業への変革について ・計画運営にあたっての子ども参加 ・ネーミング・イメージ変更の検討 ・特化型について人材・スタッフの充実 ・児童館のコミュニティセンター化 (コミュニティセンター施設か、児童福祉施設か?)
		健診保護者 (3~4ヶ月)	利用すれば使いやすい施設。		地域により、雰囲気等に差を感じる		なし	なし	なし			
		地域子育てセンターなかもち	休日開館児童館について評価大。児童館に限らず、土日に開いている施設がほしい。父親が平日休みのため、休日に母子が遊びに行く場所がない。		地域によって、休日開館に差		なし	なし	なし			
		ピッコロ利用者	乳児の午前のみ利用が不便との声。ただし、乳幼児が小学生に入り混じることへの抵抗感も。		地域によっては、ベビーカーでは行きづらい。		なし	なし	なし			
		幼稚園保護者	乳幼児と小学生が入り混じっているため、幼児の親は心配との意見	雨の日の利用			なし	なし	なし			
		青少年問題協議会 (中学生)	児童館のネーミング・イメージの変更(イメージが「小学生が利用する所?」) 自習できるスペースの要望				なし	なし	なし			
		青少年問題協議会	青少年の居場所機能の充実と指導者の配置 青少年対応にむけた児童館機能の見直しと充実を望む。児童館のネーミングを含め、中学生向けの児童館の整備 夜間開館に関わるスタッフの充実及び地域人材の活用 地域のコミュニティの発信施設とし、青少年が明るく安全に活動できる場とするコミュニティセンター的な施設事業				なし	なし	なし			
		小学生保護者	地域性を把握し、新しいマンション等の計画に見合った整備を				なし	なし	なし			
		学童保護者	夜間開放や休日開放を評価。 「特色ある」とは西東京市として、どのようなコンセプトで作り上げたいのかが重要。 「居場所」としての児童館の位置づけ。放課後学校プランが動いたら、市はどう位置づけるか。 特化(特定の対象者)が必ずともいいとは限らない。数多く地域に自然に存在して、どんな子ども気軽に行けるのが西東京のいい所。もっと多年齢の場所となりえるはず。中学生も行きたい児童館(時間延長等)に。中学生以上対象の場合、スタッフの資質が重要。 時間延長について 児童館は6時まで。親が帰宅するまでの7時頃までの子どもの居場所は。(ファミサポは使い勝手が悪く活用せず。)		1小学校区に1児童館は最低必要では。子どもにとって小学校区を離れた児童館に行くことは、「よそ行き」、自宅の近くに「居場所」はあるべき。 児童館のない地域の子どもは、校庭開放。児童館の役割の再検討。			なし	(連絡協議会)	なし		

	「青少年センター」の設置	学童保護者	青少年が本当に集いやすい雰囲気づくりと整備。青少年に精通した専門家も必要。					なし	なし	なし		
1-1-2 子どもの権利												
	子どもの権利に関する条例の検討										<p>・市が条例を制定することで、子ども自身が「権利」を理解することができる。いじめ等に関して、オンブズマン制度を設けて手助けのしぐみが必要。(審議会)</p> <p>・市民にわかりやすい表現で。(審議会)</p> <p>・条例を実現するための(施策展開)、人材と検討の場の重要性。(審議会)</p> <p>・認知度が少ない。難しい印象が強いので、わかりやすく書かれた標語を作る、何かのイベントにあわせて、適応する部分を引用するなどしたら良いのではないかと。特に子どもに伝える際には、あわせて義務についても。(市民委員)</p>	平成19年度 検討予定 すべての施策に係る重要な課題と再認識。本来は計画の上位にあるべき条例を整備し、子ども施策の実現を目指す。
1-1-3 子どもの救済												
	虐待防止ネットワークの創設	学童保護者	見守りの制度(周りが手を差し伸べられる制度、通報)の構築。					なし	なし	なし	<p>特に乳幼児に関しては、周りが見えないことが多いので、検診や予防接種における発見が大切。職員、もしくは民生委員による家庭訪問など積極的に行って欲しい。日中に在宅している人で見守りのボランティアを募り、善意の大人を増やす方向性をつけたい。また、通報後の継続的なケアを必ず行うよう行政側のシステムを整備して欲しい。保育園幼稚園学校、行政でタブー視せず、積極的に取り組んでいきたい。</p>	地域参加での見守り・救済システムの構築(市でのPRを)
	スクールカウンセラーの派遣の充実と連携強化	青少年問題協議会	子どもたちに身近な場所、学校における子ども支援体制の充実					なし	なし	なし		
	子ども自身からの相談に対応できる相談システムの検討	青少年問題協議会	教育委員会のほかに、青少年及びその保護者を対象とする相談窓口の設置 児童館における相談体制、関係機関とのネットワークを活用しての充実 青少年が相談しやすい環境づくりの実施(施設整備・インターネット等の活用)					なし	なし	なし		
1-2 子ども自身の参画への支援	1-2-1 子どもを支える地域のシステム											
												<p>1-2-1 一般施策 子ども向けの芸術・文化・スポーツの振興 「総合型地域スポーツクラブ」事業の推進 地域活動体験の拡充 ものづくり体験の拡充 を、1-2-2 (2)遊ぶへ移動</p> <p>1-2-1 防犯対策 4-4を整理、移動</p> <p>1-2-2 (1)-(3)を統合 一般施策 音楽練習室等活用の推進 図書館の子どもスペースの充実 を統合</p> <p>1-2-2 (1) 体験交流の子ども旅行事業について、内容見直し</p> <p>1-2-2 (重) 8乳幼児とふれあう場づくり 2-1へ移動</p>

その他 青少年対応の地域人材の育成・活用促進	青少年問題協議会	主任児童委員、民生・児童委員、地域アドバイザー、カウンセラーなどの人材活用。地域と学校の協力により、家庭を支援するための、家庭教育指導員、ソーシャルワーカーなどの配置。				なし	なし	なし		
子ども調査の推進	青少年問題協議会	青少年ニーズの調査・集約				なし	なし	なし		
子育ての仲間づくり、子育てNPO・グループ等の支援の充実	健診保護者(3~4ヶ月)	交流やママ友達をつくる仕掛けが欲しい(孤立感)。同じ境遇(月齢)の人との交流。				なし	なし	なし		子育ての仲間づくり、子育てNPO・グループ等の支援サークル情報の充実 対象を特化した企画やイベント(月齢別、ひとり親同士のつながり)
	ひとり親家庭	ひとり親同士のつながり。違う立場の人に迷惑をかけるという抵抗感。ひとり親に対する仕掛け(支え)が不足。 ひとり親になる前(別居中等)は、セーフティネットにかからない、仲間づくり・交流・相談が必要。	ひとり親にターゲットをしばった講座に期待。			なし	なし	なし	座談会(杉並区)あり、反響大であった。働きながら必死に生活するひとり親像イメージをつかむいい機会になった。(赤石氏)	
	地域子育てセンターなかもち	仲間づくりの場に行けない親に対する支援。				なし	なし	なし		
	幼稚園保護者	1人目は、余裕もなくつらい。2人目以降、余裕があれば他の子への支援も、親として可能。 (兄弟のいる母親の負担感や、施設利用の不便さを実感した方からの意見)				なし	なし	なし		
	子育てサークル	活動したい人や活躍している団体が、見えにくい(PR)。「公民館だより」が主なサークル紹介の方法。市内全域をカバーする広報に期待。				なし	なし	なし	・自分の住む地域に、どんなサークルや団体があるのか、わかりづらい状況。市の子育て支援のページに一元化した情報を置き、活動内容やイベント、連絡先が見えるようにしてはどうか。また、年度の途中でも見学や参加が自由に行えるとよい。(市民委員) ・市民(保護者)主体の支援について 母親が居心地のよい「居場所」をつくるための事業展開、活動しやすい場所・時間の確保、サークルへの助成金、講座企画に市民参加の呼びかけ等(審議会)	
防犯対策の充実	小学生保護者	防災の鐘は4:30、学校の校庭開放は5:00、整合性がなく、縦割り行政？ 自転車道(通学路)の整備をして欲しい。子どもの視点でのハード整備を。				なし	なし	なし		
	青少年問題協議会	地域防犯体制の強化				なし	なし	なし		
子どもによる子どものための企画づくりと事業運営の推進	青少年問題協議会	青少年の事業・企画への参加の促進 文化活動への青少年参画の推進				なし	なし	なし		(重)子どもによる子どものための企画・事業運営について ・具体的に、児童館やいこいの森公園の企画運営などを明記し、子ども参画を推進 (子ども会議・中高生ミーティング等の提案も)
	学童保護者	子どもに関すること(計画見直し・子どもの基本条例等)には、子ども参画が必要。誰のための計画・プランなのか。西東京市は何を実現したいのか？ 良い計画も条例も、利用されなければ意味がない。権利の主体は子ども。(子どもが何を欲しがっているのかは、子どもに聞かないとわからない)子どもが住みやすいまちは、大人にとっても住みやすい。				なし	なし	なし	<提案> 子ども会議(議会) 中高生向けタウンミーティング 市の施設見学会等の実施をしてみようか？	

1-2-2 集う・遊ぶ・学ぶ												
子ども参画による生涯学習事業の推進	青少年問題協議会	学校施設開放運営協議会との連携など、地域生涯学習事業の活性化					子ども実行委員会(児童課)	なし	なし			
子どもの公共施設利用促進の方法の検討	青少年問題協議会	公共施設の青少年利用の拡大(スポーツ施設、コミュニティ施設) 使用料減免や利用案内の充実 市の施設借用は手続きが面倒、中学生のみの公民館の借用(親も希望)						なし	なし	なし	予約がなくても集まれる公共施設は必須。安全な居場所を提供するために利用時間は延長するべき。ひとり親、共働きの親への支援にもつながる。定期的に児童向けのイベントを行い、公共の場所に親近感を持たせたい。	(重)子どもの公共施設利用促進 検討を、後期計画から中期計画へ前倒し 利用しやすさ、料金の問題を検討
	学童保護者	コミュニティセンターなどの一部の施設を除くと、子どもに特化した施設の利用が少ない。実態として、地区会館は高齢者専用状態であり、既得権をどうしていくか行政が介入すべき。 中学生の勉強する場所。	東伏見コミュニティセンターを評価。飲食・勉強もでき・夜間の居場所として。保護者も安心する。					なし	なし	なし	公共の施設に居場所があれば親も安心。それがなければ、中高生の居場所はないのだと認識すべき。市でのPR。	
屋内の居場所の確保	子育てサークル	歩いていける距離に遊び場や居場所(拠点)。常に開放してある居場所があれば予約の必要がなく便利。 また、高齢者も集う多目的な施設に利用には行きづらいとの意見があり、0~3才の集まり場として限定する仕掛けを希望。	ピッコロハウスを評価。 予約を必要とする施設については、気軽さ欠け、利用状況はバラつき有。					なし	なし	なし	ある程度の自己負担が、あってもいいのでは...	(重)屋内の居場所の確保 年齢にあわせた居場所の確保 開設曜日や場所等についての情報提供が必要
	保育園保護者	・常にあって、継続的に通えるような居場所があってほしい(ピッコロ) ・乳児が遊べる場所 ・預ける場所の増設 ・土日も、雨の日も						なし	なし	なし	高齢者との共存を考えていかないと、双方の権利や主張が平行線のままになってしまう。例えば、利用時間を分ける。時間帯によって使用できる部屋を限定するなど、具体的なマニュアルが必要。 高齢者と子どもと、どちらも社会の弱者という視点での権利の保障を考え、こうしたサークルの人たちの知恵も借りながら進めるとよいのでは。(敵対してもしかたがないです)	
	子育て中の父親	面倒を見てくれる人、見守ってくれる人が児童館や施設に。できれば公園にも。						なし	なし	なし		
	青少年問題協議会(中高生)	夜、安全で休憩や飲食ができる無料の公共施設が欲しい。						なし	なし	なし		
プレイパーク設置の検討	子育てサークル	子どもが遊びこめる空間・場所を常設で(日常、かつ身近)。 プレイリーダーを配置しない限りは実現困難な事業だという認識あり。	出前児童館を利用					なし	なし	なし	公園は大それたと思う一方で、危険な場所としての不安も、見守り有料化も有り	(重)プレイパーク設置の検討 冒険遊び場は実際には無理だとしたら、「西東京市の環境における自然遊び」の検討にするべきか
	幼稚園保護者	大人が規制しすぎ。 様々な年齢の子どもたちが遊べる場所。 プレイリーダー的存在があれば、理想的。	現在の公園は遊びづらい。日陰がない。					なし	なし	なし		
	学童保護者	自然が残る西東京市で子どもを参画させたいという設置を望む。行政側にも、ある程度の覚悟が必要。						なし	なし	なし		
学校開放事業の推進と「遊びの学校」事業の創設	学童保護者	校庭開放(全校実施)と「遊びの学校」の住み分けは。(現在、校庭開放の見守りは地域の手で行っている。さらに遊びの学校となると、限界が)また、プレイリーダーの配置等(専門性)を活用する際、ただ地域に委ねる方法は困難。						なし	なし	なし	行政内部の融合の困難さもあるのでは。(教育・児童青少年部)	(重)学校開放事業の推進と「遊びの学校」事業の創設 遊びの学校と校庭開放の位置づけを検討 「遊びの学校」の検討(校庭開放事業との関連性を踏まえて、小学生が遊べる地域環境をつくっていく)
	小学生保護者	校庭開放、近いにも関わらず行かない理由は一度帰宅してしまうため。理想は、ランドセルを持ったまま、友達もそのまま。 放課後学校プラン、取り組んで欲しい。						なし	なし	なし		

おとな利用が中心となる施設に子どもの遊び場併設の検討(後期)	健診保護者(3~4ヶ月)	一緒に外出する施設に授乳室・ベビーカーの設置を。外出の足かせになる理由のひとつ。				なし	なし	なし		
身近にボール遊びのできる場所の検討(中期)	学童保護者	大きい公園でなくてもいいので、身近に、乳幼児も小学生も遊べるような公園を希望。	整備が不十分	近くに遊びたい公園がない。		なし	なし	なし		
その他(遊びに関して)	ピッコロ利用者	公園が汚い。道路が危険、公園も危ない。3歳程度になれば、外や公園でもいっきり遊ばせたい。				なし	なし	なし	砂場の消毒を実施しているのか、しているなら、標識等で表示してほしい。	
	ひいらぎ保護者	ボール遊びが不可能。西東京市には、ボール遊びや花火はできるスペースがない、悪いイメージ。				なし	なし	なし		
	小学生保護者	・中学生の居場所の(遊び場)充実 ・ボール遊びができる遊び場の充実 ・子どもが歩いていける遊び場所の整備(児童館等) ・就学前の施設整備は手厚いと感じるが、小学生になると・乳幼児と同じ場は遊びづらい。			子ども利用施設の場所がわからないので広報PRの必要性	なし	なし	なし		
	青少年問題協議会(中高生)	学校やアルバイトで、日中遊んだり友人とお喋りする時間がないので、夜になってから外出してしまう。 お金がないので友人と集まる場所がコンビニや公園しかない。 公園利用の際、ボール使用禁止などの制限がないようにしてほしい。 壁打ちができる場所、楽器の練習ができる場所、大勢で遊べる広場が欲しい。				なし	なし	なし		
その他(放課後対策について)	小学生保護者	「放課後子どもプラン」による学校での放課後支援事業に期待(向上台:現実空き教室、ない状況) 放課後の居場所がない現状。児童館は狭く、雨の日はスペースが足りない。				なし	なし	なし		
	青少年問題協議会	(中高生) 学校が放課後も長い時間開放されるのであれば、利用したい。 放課後活動ができる施設の整備(スポーツ、ボール遊び、音楽活動、自習) (保護者) 子どもが安心して放課後を過ごすことができる公共施設の活用・整備 学校施設の活用促進				なし	なし	なし		
1-2-3 子どもと情報										
ホームページについて	小学生保護者保護者	使いづらい(検索しづらく、欲しい情報が見つからない。)				なし	なし	なし		
その他(情報の充実)	青少年問題協議会	・子ども自身が参加する子ども・青少年向けの広報体制の実施(ホームページの活用等) ・青少年向けの情報の集約と広報・情報提供の充実				なし	なし	なし		子どもと情報幅広い年齢層に(中高生まで)対応できるよう検討

施策NO.	事業名(施策項目)	対象者	感想・評価	利用度 (使いやすさ)	地域カバー度	情報到達度 (認知度)	企画・運営への参加度			その他	市民委員・審議会 コメント	今後の方向性
							子ども	保護者	地域市民			
2-1 心身の自立												
	タバコ・薬物・性感染症に対する正しい知識普及の充実						なし	なし	なし		タバコ・薬物・性感染症・飲酒などについて標語を募集し、児童自身の自覚を促すようにするとよいのでは、さらに、それを町の色々な箇所に掲示する事で、大人にもよびかける。	
2-2 経済的自立												
	インターンシップ制度の導入の検討						なし	なし	なし		春休みや夏休みに、1日警官、1日消防士、1日市役所職員など、子供の足を大人の職場にむかわせるイベント。各商店街などにも参加をよびかける。	
2-3 親役割を理解する												
	高校生、大学生のボランティア活動支援事業の推進	ひとり親家庭	小学校高学年程度からの支援(学童クラブがなくなる時期、小4-)を期待(例:大学生ボランティアから勉強)。				なし	なし	なし		親子で参加出来るイベント・ボランティア	
		青少年問題協議会	学生ボランティア、地域の人材(団塊世代)の活用による青少年事業の活性化				なし	なし	なし			
	その他(家庭について)	青少年問題協議会	家庭内における家族コミュニケーション環境の確保				なし	なし	なし			
	性の尊重に向けた支援事業の検討	青少年問題協議会	(保護者) 性行動に対する指導・相談の対応の実施				なし	なし	なし			
2-4 他者を理解する力												
	その他	青少年問題協議会	(中高生) 大人に対する意見表明の場、機会の確保 大人の子どもに対する理解を、保護者を教育する学校を、(保護者) 青少年に対する接し方に対する支援 大人と子どもの交流の実施				なし	なし	なし			
	その他(命の重さ・大切さ)	青少年問題協議会	遊びや生き物・自然体験を通じて情愛・体力・知力を養う支援を				なし	なし	なし			
2-5 地域への参加												
	その他	青少年問題協議会	青少年健全育成に関する地域力の向上を望む				なし	なし	なし		ボランティアスタンプラリー等は?	

子育て・子育てワイワイプラン 施策評価表 基本方針<3>子育て家庭の支え合い

施策NO.	事業名(施策項目)	対象者	感想・評価	利用度 (使いやすさ)	地域カバー度	情報到達度 (認知度)	企画・運営への参加度			その他	市民委員・審議会 コメント	今後の方向性
							子ども	保護者	地域市民			
3-1 子育て事情	3-1-1 子育て意識											
	父親の育児参加の推進	保育園保護者	環境はある程度は整いつつあっても、現実には男性社会であり、それらを活用するに至らない(男性意見)。				なし	なし	なし		父親向けのイベントの実施	・企業の職場環境づくり 市からの啓発 ・事業の仕掛け ・父親が参加しやすい仕掛けづくり(曜日や時間帯、企画)
		青少年問題協議会(中学生保護者)	男の子に対する父親の子育て参加 小学校施設を利用した、父親参加事業の推進				なし	なし	なし			
		子育て中の父親	子育てへの意識は、人によって様々。ケースバイケース。会社の理解等も。 母親のストレス(女性としての生き方) 男性は、基本的に理解していないもの。 ファザーストレスについて ・子どもの病気の時に、会社をどちらか休むかで喧嘩 ・子育ては、中途半端は楽しくない。自分のやり方で徹底的にやると楽しくなる。 ・母親のストレスを聞くのがストレスになることも 父親のはげ口が無い イベントについて ・しきいが高い 魅力が無い 妻のつきそい ・楽しもうとは思えない(男性向けではないから) ・男性が楽しむイベントがない。男としての父親が楽しめる企画(バーベキュー)や、子どもと同じ目標を持ってられるもの(野球チーム)など ・男性のイメージを向上。男の育児のイメージが、うまく掴めない(カッコいい父親像)。イメージも良く(芸能人等)、理論的な講義や公演があれば、 男性の意識改革は、長い目で。考え方を考えるには、時間がかかること。 父親に対しての仕掛けを作っても、最初は来ないもの。それを覚悟で、市で腰をすえてやること。30~40代の男性は、やはり働き盛り、忙しいもの。 「家族」というカテゴリーではなく、「男」「女」別々の仕掛け、違う視点があって当然!	時間帯によっては参加、気軽さも重要。 男性が入りやすいきっかけづくりを、市がつくる。		父親向けの市の事業を知らないことも。	なし	なし	なし			
3-1-2 子育ての状況												
	子育てに関する学習機会の充実	母親学級	両親学級 機会を増やしてほしい。父親が参加できる時間帯を希望(土曜の朝からは厳しい) 平日も実施すべき。 母親学級 3回シリーズは良い企画だが、有休を使うのが苦痛。				なし	なし	なし		参加出来る条件や機会を増やして欲しい。行きやすい場所、時間、保育等。また定期的に行って欲しい。 学習機会の充実 思春期の親のための企画(新しく加える) 「食育」の推進 を創設	
		地域子育てセンターなかまち	自分の子どもを預けてまで、子育て講座や自分の行きたいところに行くのは難しいし、気持ちの余裕はない。 一緒に参加できることが、母親にとっても楽しめる。				なし	なし	なし			
		青少年問題協議会	思春期の子どもを持つ親に対する子育てセミナーの開催				なし	なし	なし			

3-2-1 子育ての支えあい意識										ファミリーサポートセンター(3-2-1)を4-1へ			3-2-2(3)相談 新生児訪問は、4-2-1へ統合		
その他 (母親の閉塞感)	保育園保護者	外出しないのが「当然」という感覚、つらい。 リフレッシュできないのが現状。 保育付きの事業を増やしてほしい、土日に参加したい。 月～金まで働き、土曜日にリフレッシュしたいと思っても、保育園は原則預かれぬ。 母親が誰にも気兼ねなくリフレッシュできる時間を散れるような施設やシステムを。					なし	なし	なし	・支援する保育者の研修が必須。従来の子育て観が根強く、特に保育者は「子どものために」というひとことを簡単に口にするが、あのひとことが母親をより追いつめているという自覚があまりにも乏しい。すでに子育て支援に一定の結果を出している現場責任者を招いて、具体的な話をしてもらったり、パネルディスカッションをするなど、外の情報を入れることが先決かと思う。(市民委員) ・スタッフの専門的資質の向上、コーディネーターの必要性。(市民委員)	ファミリーサポートセンター 制度を見直し、使いやすい制度へ。 (利用側) 使いづらい、緊急対応できない等 (提供側) 仕事として成立しない、ボランティア的で非効率的。 制度に無理があるとしたら、 ・新しい仕掛けや施設(保育園や幼稚園)との連携が必要なのは、 ・対応できない一時保育的な常設支援が必要なのか、 ・既存のファミサポ+特化したファミサポの使い分け等の検討 一時預け、リフレッシュすることへの母親の罪悪感、 在宅保護者(母親)の重圧感を、緩和する支援				
	幼稚園保護者	1働いて保育園か 2家庭にいて幼稚園か どちらか(女性の生き方) 2を自らが選んだことでの重圧感が。 自由に動けない閉塞感(幼稚園の預かり時間の制限)					なし	なし	なし						
ファミリーサポートセンターの充実	母親学級	出産前には必要性を感じていない。					なし	なし	なし	・ファミサポの定着が、難しいのは、もっともな気がした。預ける側と預かる側の利害が一致しないと、継続は難しいだろう。研修制度も含めて、コーディネイトする窓口が必要。学童保護者から出ている「ファミサポ、学童、保育所の連携」はおもしろい提案だと思うが、ここでもコーディネーターがいないと、うまくまとまらないと思う。(市民委員) ・体験談や、利用例などで、安心感を持たせる工夫。美容室やスーパーなどの連携。その際、1人で2、3人見る事による割引料金等の設定。ひとり親などへの援助。障害児に対しての一時預かりも、健常者よりも必要なのではないかと、必要とする人への呼びかけ。(市民委員) ・専門職とボランティア支援者との役割り区別 ・安全が大前提である以上、ある程度の使いにくさはある。サポート側の責任の重さと対価の低さの問題(審議会)					
	子育てサークル(提供側立場として)	サークル活動を行う団体なので提供する意識は高く、実際に提供経験もあるが、課題点は多い。制度上の限界があり、ファミリー会員の要望にこたえられないジレンマが、長続きできない理由のひとつ。 (時間帯があわない、普通の仕事に変えた(賃金面)、マニュアルの拘束(自転車・自動車ダメ)、講習に出られない、顔合わせのあとの要請がない等)	乳幼児子育て経験を終えた対象者のなかには、サポート会員経験者あり。意欲があっても、続けづらい状況。	市内全体をカバーできる	サポート会員経験者が出席しており、制度の認知度は高い。ただし、未経験は詳細知らず。個人差あり。		なし	なし	なし						
	子育てサークル(利用者側として)	リフレッシュのための利用や、サークル活動のための利用であるなら(活動サポート)、使い方として今後有効では、サービスの情報を事前に知らないことも。	利用することに不安感(制度の詳細を知らないため)。	市内全体をカバーできる	個人差あり			なし	なし		なし				
	健診保護者(3~4ヶ月)	母親のリフレッシュに利用できるなら便利とは思う一方で、罪悪感も。利用したいのは、ささいなこと、急なとき。(美容院、友人との食事等)	ほとんど利用なし。	市内全体をカバーしている。	何をしてもらえるのかが、わからない等、情報がない親が多い。			なし	なし		なし				
	ピッコロ利用者	緊急のときに、役に立たない。サポート会員がいつも同じとは限らず、不安、信用問題。 常に場があって、そこに人がいて(見守り)くれると、使いやすい。	登録はしたが、使うに面倒。利用することはないとの意見。利用に対する罪悪感も。					なし	なし		なし				
	幼稚園保護者	制度はあっても、充分活かされていないのでは。 働いていない母親が、幼児やリフレッシュの時に子どもを預けることへの罪悪感があるため、利用しづらい。	利用していない。登録制という使い勝手が悪い。急なときに使えない。					なし	なし		なし				
	地域子育てセンターなかまち	困ったその時に利用できない						なし	なし		なし				
	学童保護者	ファミサポと、学童クラブ・保育所との連携など(急な事態にも対応できるしくみづくり)。 需要は増えていくので、協力者をどう増やすか、また、協力者同士の経験交流、意見交換を行う「場」を設定すると良いのでは。	登録はしても、使うことができない。緊急性に対応できないこと。					なし	なし		なし				
3-2 子育ての支えあい	3-2-2 子育てに関する支えあいの状況														
園庭開放の推進	子育てサークル	事業の存在は充分知っている団体だが、参加には抵抗があるよう。公園の方がいいという意見もあり、事業そのものではなく、仕掛けが課題。イベント以外は参加しづらい状況。多数派の在園児から利用者親子が孤立してしまうので、基幹型以外では、地域限定の日をつくるなどの仕掛けが欲しい。今は、同じ境遇の人たちが集えない状況。		全保育所実施	事業の認知度は高い。		なし	なし	なし						
	ピッコロ利用者	在園児と一緒に入り混じることができないため、抵抗感がある。 在園児との壁					なし	なし	なし						

子育てひろば事業の充実	健診保護者 (3~4ヶ月)	ピッコロハウスに関する意見多数(好評意見)。兄弟がいる世帯では、多少の不便さも(3歳以上の兄弟の場合)。		市内全域カバーできない。遠くに行けないという意見も多数。	認知度高	なし	なし	なし		
	ピッコロ利用者	0歳だけは別室にしてほしいという意見あり 兄弟一緒に参加できる事業がほしい。下の子を預けてまで、上の子の事業に参加？ 保育付きがベスト。外出するときの足かせに。 武蔵野市 0123吉祥寺・0123はらっぱ のような施設がほしい。(多数あり)粘土遊びや外遊び・自宅ではできない遊びが可能なのが魅力。	地区開館の一室を、子育てひろばにしてほしい。			なし	なし	なし		
育児・子育て相談事業の充実	健診保護者 (3~4ヶ月)	不満があっても、どこに言ってもいいのかわからない。 気軽に相談したくても、子どもが小さいと忙しい。 何かを聞きに来てくれれば話すことはできるが、わざわざ行政に行くのは、できない(苦情ではないから)。			不満や要望を、どこに伝えるのかわからない。	なし	なし	なし		<p>敢えて、「相談」という窓口に行くのは、かなり勇気がいるはず。もっと日常的な会話の中で相談したいはず。相談業務を別セッションで考えても、空回りするだろう。それよりも、「ひろば」のスタッフの資質の充実や場作りを推進する方がうまくいくのではないか。このあたりも、いろいろな現場の取り組みをもっとリサーチする必要がある。ほとんどの育児不安は、日常的な会話と集まりを意図的に行うことで、解消されるという実績はほかの支援現場で立証済。</p>
	地域子育てセンターなかまち	大きな相談ではないが、不安なこと、子どもの健康状態や成長に関する話を聞きたい時がある。保健師への相談も、気軽にできたら… 先輩パパ・ママからの「エピソード集」(悩みや不安、体のこと)があれば、わざわざ、行政に対して意見を言うほどではないと考えている。言う機会があれば言うが、自分からはしない。(自分で頑張る)				なし	なし	なし		
子ども家庭支援センターの充実	ひとり親家庭	ひとり親のみに対する仕掛けや集まる場所があってもいい。福祉事務所では、ひとり親は立場が弱く、給付される立場。 グループのきっかけづくり・交流・相談…ただし、事業実施に際しては、職員にひとり親についての知識があることが前提となる。				なし	なし	なし		
障害のある子どもの療育・教育相談事業の推進	幼稚園保護者	障害のボーダーにいる子どもや親のためにも、5歳児健診を実施し、学校との連携をはかってほしい。				なし	なし	なし		
子育て家庭への情報提供の充実	ピッコロ利用者	市報が便利。 ホームページは、時間がなく見ないのが現状(子どもがいると見れない)。				なし	なし	なし		
その他 (子育ての支えあい)	幼稚園保護者	預けることへの罪悪感を、少し楽にしてほしい(心理的)。 民間サービスの利用も利用はできるが、地域で、もっと気軽に行き場があれば、精神的に安心。ちょっとの時間、見てもらえる場所が常であれば、普段の子育ての負担感が減る。使う・使わないは別として、行き場所があるというだけで安心。				なし	なし	なし		
その他 (地域とのつながり)	子育て中の父親	地域でいる60歳以上の人たちは、つながりがあれば手助けしたい…きっかけや、仕組みがあればいいのでは？				なし	なし	なし		
その他 (情報)	小学生保護者	子育て支援計画自体の存在すら知らないとの意見多数。 PR不足、実際に行われている事業が何か、よくわかっていない。 子育て情報冊子(西東京花子)は、乳幼児には適しているが、小学校向けには？				なし	なし	なし		
その他 (市報に関して)	ひいらぎ保護者	市報の相談情報は抽象的な紹介で不安、相談するのに躊躇する。 ひいらぎ = 障害とのイメージ 市のPRに疑問。				なし	なし	なし		

施策NO.	事業名(施策項目)	対象者	感想・評価	利用度 (使いやすさ)	地域カバー度	情報到達度 (認知度)	企画・運営への参加度			その他	市民委員・審議会 コメント	今後の方向性
							子ども	保護者	地域市民			
4-1 子どもと家庭の支援	4-1-1 子育て期の支援											(重)9「学童クラブの施設整備」は、「学童クラブ運営の充実」に含める。 4-1-2 児童扶養手当 はひとり親へ移動
	(仮称)子どもの総合支援センターの開設	学童保護者	「こどもの発達支援センター」に対する、質の確保(現在の「ひいらぎ」を維持)さらに、就学に対する発達の不安に対する支援も期待。施設の性質として、子どもだけではなく保護者支援でもあろうから、ネーミングも含めた検討。				なし	なし	なし		・ネーミングを熟考するべきだろうと思う。支援するのは、「子ども」だけではない。「子どもを育てている家庭」を支援する。障害に対する偏見をなくする意味でも、このセンターは「すべての子ども」を支援する場であってほしいと思う。(市民委員) ・障害児が地域で生活していく力を育てるための、乳幼児期からの共に育ちあっていく場づくりの重要性(審議会) ・障害児の通園・通所に関して、こどもの総合支援センターでの相談機能が障害児を振り分けるのではなく、保育園等での生活を基本に進められるように考えること(審議会)	(重)学童クラブ運営の充実 時間延長の検討。施設整備の検討と一緒に明記する。
	公立保育園のブロック化とサービス内容の見直し	保育園保護者	保育施策全体が、昔と比較し良くなったと感じる(3人目を子育て中)...特に基幹型保育園の開放事業の取組みは、評価(在園児のみならず、保育士が地域の子どもに支援)。				なし	なし	なし		<地域子育てセンター(なかまち保育園)での聞き取り>住んでいる場所によっては児童館の活動が知られていないようだ。行っても友だちが少ないため、必ずだれかが居るこのセンターに遠くても通ってくるの。また、曜日によって、隣の練馬区から決まったグループがあそびに来ており、その日は市内の親子の参加が少なくなるたこと。居住区の違いというよりは、できてしまっているグループに対する疎外感が原因のような印象があった。このセンターでは、スタッフがどういう位置にいるのか、聞き取り調査の日にはよく見えなかった。親同士をつないでいくサポートはどうなっているのか。(市民委員)	
		地域子育てセンターなかまち	保育園を他の目的に使うことに対する、在園児保護者としての不安もある一方で、地域に子育てセンターがあることで使いやすくなっていることは確か。(ピッコロハウスなどは、遠いといけない親子もいるため)		今後、各地域で分散して行われるのであれば、地域をカバーできる。	保育園や公共施設の掲示板が情報源	なし	なし	なし			
	入園について	子育て中の父親	働いていないと保育園に入れない。入園していないと働けない。(認証も、年度途中は入れず...)		一時保育について地域差		なし	なし	なし			
	保育料について	保育園保護者	3人通園時には、保育料減免であった。第1子が卒園した途端、2人通園のため、保育料が急激に値上げ。高い・安いの問題ではなく、制度に矛盾を感じた。 保育料を下げてほしい。				なし	なし	なし			
	育児休業制度と保育園入園時期について	保育園保護者	育児休業は3年取れても、上の子が在園の場合、第2子を入園させたいために、早めに復職。制度が活かされない状況。 また、パートで働きながら待機する保護者にとっては、低年齢児の入所枠が上記の理由でなくなっていることに不満を感じているのでは。 2人目をなかなか産めない。正社員でないため、育児休業なし 2人目が保育園に入れない。第1子が保育園を退所しないと...等の不安感。				なし	なし	なし			
	保育園在園要件について	保育園保護者	第2子出産の際、第1子の保育園在園が心配。第2子の育児休業を充分とって、第1子が退園させられたら意味がない。 在園期間を延長できないか、検討してほしい。(複数意見) 第2子の育休をとるなら第1子退園という説明の対応が冷たいと感じた。				なし	なし	なし			

共働きへの配慮など	保育園保護者	共働きだと所得が高いと見られ、あらゆる点で不利益。 職場内の配慮(子育て中の残業や早退等) 保育園の増設 保育園の職員配置に配慮を はなバスの増便 道の段差等、子育て中には困難なときもある。					なし	なし	なし	
市への要望 (保育施設に関して)	保育園保護者	公共施設に、子どもトイレを希望。 保育園の遊具等、メンテナンス(塗り替え)を希望(施設の整備) 保育課が、保谷庁舎に無く不便(妊娠中に困った経験)					なし	なし	なし	
一時保育の充実	ピッコロ利用者	市の事業(母親の健康診断)に参加するために、保育園の一時保育を有料で利用した経験あり。矛盾を感じる。	混んでいる状況への不満意見あり	実施箇所4園 (22園中)			なし	なし	なし	一時保育の予約方法はいろいろな事例を研究し、利用者にとっての使いやすさを研究する態度が必要だと思う。
	保育園保護者	実施箇所・受け入れ人数枠を増加の要望。 利用料金の軽減を要望。 待機児童解消のために、一時保育で。	申込みが殺到。 使えるときは便利だが、申込みが大変。				なし	なし	なし	
病後児保育の充実	幼稚園保護者	働いていないので、片身が狭い。 施設箇所が増えれば便利。		市内2ヶ所	認知度は高い		なし	なし	なし	(重)病児保育の検討 後期計画から、中期計画に前倒しする。
	地域子育てセンターなかまち	料金が高いと感じる。 (一日で見れば決して高くないが、病気のあとは大抵、一日の預かりでは済まない。)					なし	なし	なし	
	学童保護者	対象者を小4から小6まで引き上げて欲しい(ひとり親)。					なし	なし	なし	
病時保育の検討	健診保護者 (3~4ヶ月)	使うことを想定すると、急に利用する場合の対応が欲しいとの意見。			認知度は高い		なし	なし	なし	
	ひとり親家庭	病後児保育では、とても仕事ができない。急な時には、病時保育が必要。					なし	なし	なし	
	保育園保護者	病氣中に預かってくれる場所がほしい。					なし	なし	なし	
その他 (休日・緊急の預け先)	保育園保護者	日曜日・急なときに預けられる場所(駅の近く)。 保育園で具合が悪くなったとき、親が直行できない場合に、つなぎで預かってくれる場所(複数意見)。					なし	なし	なし	
保育園の入所枠拡大の検討	健診保護者 (3~4ヶ月)	働いていなくても保育園に入りたいという意見は多く、常時預けられなくても遊び場や一時保育が充実していると安心できるとの声。 保育園入所の条件や時期についての情報が不明瞭。 認証保育所の情報も込み知ることができると、選択もできていいのでは。					なし	なし	なし	「認証保育園に入れたのなら、市立の方には出さなくてもいいんじゃない?」と職員のコメント。/「働かないと入れない」と言われたが入れないから働けない。再就職の道が閉ざされる。/市立がいっぱいの事で、認証保育や保育ママのしおりを渡されずめられた。全て電話したが、どこもいっばいで、西東京市では、預けられる所を見つけられなかった。しおりを渡すだけでなく、空無しだという現状を把握し、(世田谷区のように)情報として与えるべき。/近隣の保育園についての知識も持って欲しい。
	地域子育てセンターなかまち	保育園入所申込みの時期と、幼稚園の受付時期がずれていることに対するジレンマがある。 幼稚園を選択肢にいれたくても、併用できない現実がある。 管轄の異なる縦割り行政の弊害では? 保育園の入所のしくみ、認証保育所の役割や入所の方法、幼稚園との選択等、情報がわかりづらい。 母親のライフプランに合わせた情報がほしい。 幼稚園で、長い休み期間も預かってほしい。(預かり保育を夏季・冬季休業中も)					なし	なし	なし	
	幼稚園園長会	待機している保育園入園希望者のうち、幼稚園の預かり保育制度でカバーできる児童がどれくらいいるのか把握しているか。					なし	なし	なし	
保育園入所基準について市への要望	保育園保護者	兄弟別々園の大変さ。統一してほしい。(送迎・行事等) 4月以外にも入園が可能に。 0歳・1歳児の入園をスムーズにしてほしい。					なし	なし	なし	
認証保育所への支援の検討	健診保護者 (3~4ヶ月)	保育園入所ができずに認証保育所に通うケースが多く、保育料への意見が多数。 ただし世帯によっては、補助により保育園より保育料が安くなるケースも。一概に高いとの批判ではなかった。			保育園と同様、情報が不明瞭。		なし	なし	なし	保育ママや保育所を募ったり、そこへの差額援助(都内で行っている自治体あり)等して、保護者の負担を軽減する努力が欲しい。
手当の充実	小学生保護者	医療費助成の増額の要望。(小6まで)区部との比較。 経済的援助は第3子よりも、まずは第2子。					なし	なし	なし	

4-1-2 障害のある子どもを育てる家庭の支援													
ホームヘルパー派遣事業の充実	ひとり親家庭	残業のときに、とても助かる。安心して働きたい。						なし	なし	なし	学校との十分な連絡をとりながらの発達障害児への横断的かつ縦断的な取り組み。心身障害教育から特別支援教育への変更(審議会)	障害のある子ども 障害のある学齢児の療養・リハビリ昨日の確保 障害児放課後活動としての常設場確保の検討を、重要施策へ。子どもの居場所(重5) 普通の児童館に、障害児も一緒に。相談からフォローアップまでを行う施設整備の検討 を重要施策に。 子どもの総合支援センターでの事業展開に関連づけ	
障害児放課後活動としての常設場確保の検討	ひいらぎ保護者	専門員を配置し、常設「障害児児童館」を実施してほしい。						なし	なし	なし			障害児児童館の設置予定なし
障害児保育の充実(入所型と通所型の障害児保育の充実)	学童保護者	市の制度(支援)が周知されていない。知っているからこそ利用できる制度、市のPR不足を感じる。広く知ってもらうこと。						なし	なし	なし			
その他 障害児支援全般	ひいらぎ保護者	市内の障害児の数に、サービスが合致していないのでは、という意見あり。						なし	なし	なし			
相談からフォローアップまでを行う施設整備の検討	ひいらぎ保護者	親としては、ここに行けば情報が得られるという場がほしい。わかりやすく、かつ正確な情報。まずは総合的な相談から入り、その後、専門的知識のある障害者施設へ進むような仕掛け・組織体制であってほしい。 新しい「こどもの総合支援センター」定員は、どうか、施設を増やすことができないなら、定員を増やすことで、現状問題は解決してほしい。	トータル的な子育て情報に関して、PRが下手。					なし	なし	なし			総合支援センターのあり方等、市民の意見が届くのが遅い。
4-1-3 外国籍の子どもを育てる家庭の支援													
											学校からの手紙などを読んであげられるサポーターが近所にいるとよい。インターナショナルの集いを毎週、行うなどして孤立感をなくすようにするといい。		
4-1-4 ひとり親家庭の支援													
ひとり親への給食サービスの検討	ひとり親家庭	学童がない小学校4年からは、給食サービスがあれば安否の確認という点で有効。						なし	なし	なし	ファミリーサポートや児童館のサービスを充実(料金枠の見直し、時間延長)させて負担軽減を図る	ひとり親家庭への支援 就労支援プログラムの策定が必要(一般施策に項目を創設)。	
その他 (中高生の親の意見)	ひとり親家庭	中高生を抱えた苦悩したひとり親の意見を伝えるべきがない。 (乳幼児の相談はしやすいが) 学童や児童館等・誰かに目をかけてもらって育てほしい。						なし	なし	なし	インターネットでのやりとりはどうか。		
就労支援について (ひとり親)	ひとり親家庭	就労支援プログラムがない。 母子の専門職場がなくなった現在は、昔より状況が厳しいはず。支援プログラムは必要。						なし	なし	なし	緊急にもうけるべきだと思う。ただ設置のみに終わるのではなく、必ず実績がともなうようにしなくてはならない。		
児童扶養手当・児童手当の充実	ひとり親家庭	金銭給付は必須であり、支援の骨格。 ひとり親に対する手当を西東京としてはどうかを考えてほしい。その上で、公平かどうか(父子・母子の平等化)ひとり親は、皆平等に大変ということ、「支援」を市できちんと位置づけてほしい。 西東京市はひとり親(母親)の就業率が高いというが、それでも貧しいという事実。それは、ひとり親だからではなく、就労体系の問題であり、どうしても低賃金となる。 現況受付を、夜間でも。	市の窓口対応1つ1つが重要。その後のサービス利用度の判断基準となってしまう。 市として、どういう位置づけなのか、支援という認識があるのか、ということ。					なし	なし	なし	児童扶養手当がP65、障害から移動すること。		
医療費その他の助成について	保育園保護者	医療費助成の対象年齢を引き上げてほしい(複数意見)。小学生まで、所得制限をなくしてほしい。 子どもを育てるには、やはり助成が必要。						なし	なし	なし			
その他 (乳幼児医療費について)	母親学級	理想は、乳幼児医療費の年齢の引き上げ。 経済的な負担は、妊婦の頃から。生んだあと子どものに対する助成の充実。						なし	なし	なし			

4-2 保健・医療	4-2-1 母子保健体制の整備・充実											
	健診の活用による母子保健の推進	保育園保護者	働いている親のために、時間帯を充実させてほしい(有休は、子どもの病気の際に)。長い時間、実施するか時間帯を工夫、土日での実施等					なし	なし	なし		食育の再掲
	予防接種についての普及啓発の充実	母親学級	予防接種に関する情報が少ない。母子保健全般(特に小児病院)に関する情報の充実。					なし	なし	なし		
	4-2-2 医療											4-2-1(1)～(5)を、まとめる。 4-2-2(1)～(7)を、まとめる。
	かかりつけ医制度の推進	地域子育てセンターなかもち	予約をしても病院が込んでいて、困る(かかりつけ医)。小児科単独の病院がもっとほしい。					なし	なし	なし		(課題) 休日・夜間体制 小児科が少ない 分娩できる病院
		保育園保護者	夜間診療実施の病院が少なく不安。					なし	なし	なし		
	救急医療体制の充実	幼稚園保護者	休日診療の小児科が少ない。市が実施する休日診療に問い合わせても、肝心の小児科医がいないときがある。					なし	なし	なし		
その他 母子保健に関して	ピッコロ利用者	子どもの健診は頻繁に、1日に集中しないよう希望。2ヶ月に一度程度ではなく、回数を増やす等同様に健診も...健診の内容などは、とても良い評価。					なし	なし	なし			
		分娩できる病院の少なさ(診察はしても、分娩する病院が少ない)					なし	なし	なし			
その他 青少年の健康	青少年問題協議会	食育の推進 若年性成人病対策					なし	なし	なし			
4-3 教育	4-3-1 学校教育											4-3-1 重要施策は、割愛。 4-3-2 はすべて割愛する(1-2-1へ統合する)
	幼・保・小・中学校の交流・連携の推進	幼稚園園長会	就学時健診の重要性。発達の遅れは、幼稚園側より学校側からのアプローチ。(幼・小の連携)ただし、個人情報等の課題があるので、ある程度、市が介入してもいいのでは。5歳児健診を、時間をかけて専門的に判断、保護者へ伝えていくことが必要では。					なし	なし	なし	幼保一体化の試みは？	メディアリテラシー教育 計画を中期に前倒しできるかどうか(指導課)。 幼・保・小の交流・連携 発達・要保護の支援にたいする連携。重要施策に掲げるか。 重要施策4に関連して取り組んでいく。
	その他	小学生保護者	「いじめ」の問題等、相談の制度を充実させて欲しい。					なし	なし	なし		
	その他 (学区域)	小学生保護者	合併後、何年も経過しており、学区を見直して欲しい。 (例)保谷2小・柳沢中...通っている子どもはほとんどいないのに、学区になっている					なし	なし	なし		
	その他 学校教育について	青少年問題協議会	学校授業の充実 学校の授業では物足りないので塾に行って勉強している。					なし	なし	なし		

		4-3-2 子ども・子育て家庭支援者の育成							育児支援がうまくいか否かは、スタッフの資質にかかわると言っても過言ではない。いまだに、育児支援に対する戸惑いや迷いが根強く、その揺れが利用者につづけられている。これは、西東京市だけの問題ではないが、いるいるな支援策が周知徹底されていない背景には、支援スタッフの戸惑いが遠因として挙げられると思う。支援スタッフのケアやサポートを考えていくことが、支援充実の近道だと思う。例えば、子育て支援研修会の講習費負担、あるいは研修会の実施、また定期的な支援者のためのカウンセリングなど、やるべきことはたくさんあるように思う。			
4-4 子ども・子育て家庭のためのまちづくり	通学路・通園路の安全確保の充実	幼稚園園長会	不審者情報のネットワーク化の構築 情報は、たしかなものではないという一方で、確実にしてから情報で遅すぎるという意見も。 行政側の内部調整が不十分					なし	なし	なし		4-4 防犯を、1-2-1と整理をする。 は割愛し、1-2-1子ども参画の中に内容を含める。 をまとめる。 を、4-3へ移動(4-3-1を学校教育から「教育」とする)
	・防犯対策 ・通学路・通園路の安全確保 ・子どもの緊急避難場所とする事業の推進	学童保護者	・通学路のハード整備(街路灯など)の重要性。 ・不審者情報の携帯配信 地域の中で、子どもを善意で見守りたい人(高齢者等)が、逆に不審者扱いされるようなことのないよう、コミュニケーションのシステムが欲しいとの意見あり。					なし	なし	なし	下校時の見守り放送は良い(子どもの声で)。 通学路のみならず、保護者も子どもも、安全で安心できる遊び場を欲している	通学路の安全確保について「不審者情報のネットワークづくり」を新しく掲載 通学路のハード整備(外灯) 子どもの視点をもって整備 ピクトブ設置の推進 環境教育の推進 親子施設見学会の検討 を自然を豊かにするまちづくりへの配慮(環境・公園)という表現に 「まちづくりへの子どもの視点」を新たに追加(4-4) 子育てに優しい公共施設整備、子育てバリアフリーの推進(ハード面)
	通学路・通園路の安全確保の充実	小学生保護者	外灯(遊びや学童から帰る道)を、整備して欲しい。					なし	なし	なし		
	コミュニティバスの充実	幼稚園保護者	住み続けるまちにするなら、地域性のカバーを。子どもの健診や行事が、地域によっては交通アクセスが不便。					なし	なし	なし		
	その他(地域性)	ピッコロ利用者	保育園施設、市の北部ばかりが充実しているように感じる。 施設にしても、地域性がありすぎて、住むところによって感じ方は様々					なし	なし	なし		

(1) 計画の推進体制の確立

(市民意見)

- ・支援の制度、システム1つ1つはあるが、そのつながりがない。子どもの成長に沿って時系列で、多面的なコーディネートが必要では。(学童保護者)
- ・0～18歳は、ここにいけば概ね理解できる、という部署がほしい。
- 縦割り行政(管轄部署の違い)(学童保護者)
- ・市役所に電話等で問合せでも、いろんな部署にまわされ、結局何も解決できないことがある。
- もっと気軽に聞きたい気持ちがある。
- ・青少年対策・対応の行政組織機構の充実(青少年問題協議会)
- ・青少年施策は、多くの部署が関わっているが、全庁的な横断体制が不十分である、総合調整機能の強化が必要。
- (青少年の居場所づくりの推進にあたって、関係各課の連携が必要)
- ・地域性...保谷地区・田無地区の施設のアンバランス(合併後)

・それぞれの立場でそれぞれの要望に応えようとする、どうしても場当たりの発想になっていく。それだけは避けたいと思うが、そのためには、西東京市として、どういうイメージを核とするかを、常に議論し、確認していくべきだろうと思う。できることなら、「行政専門職」の配置を希望する。あるいは、行政専門職をサポートするような機関の設置を希望したい。(市民委員)

・児童館や公民館、図書館などで事業成果は挙がっていると思うが、まだ認知度が低く、使用者に限られている。計画に挙げた項目をただ行った、年に1回した。という程度で満足せず、「継続してよりよいものを」と常に積極的に具体的に推進していきたい。(市民委員)

・情報の一元化は絶対に必要だと思う。子育てに関しては、どこにいても適切な情報を与えられるように、意識の向上も求めたい。障害を持つ子の親、虐待を受けた子ども、働く親、ひとり親、といった危急にサービスを求めている箇所に、よどみなく時間とお金と人の手がいくようにしたい。(市民委員)

・子どもをめぐるネットワーク(西東京市における子ども関係のデータと対策が集約され、共有化させる場)の一本化(市民委員)

(今後の方向性)
協議会の設置検討(子どもの権利条例策定を視野に入れて)
庁内各部署の連携

(2) 組織体制の確立及び市民・NPOとのパートナーシップ

(市民意見)

関連機関との連携について
園長会から市への要望や意見を言う機会(一方通行)だけではなく、市から、その後の経過を伝えてもらう機会があるといいのでは。(幼稚園園長会)

行政の組織体制について
全般的に大人発意のものに子どもをどう参画させていくのが大切で、アライバ的に会議に参加させるだけではなく、子ども関連の施策に子どもの参画を前提とするようなシステムを要綱などで作成してはどうか。

・市民の力やNPOの力は、自治体の貴重な資源。資源はどう活用するかで、その価値は大きく違ってくる。活用するのは、やはり自治体自身であろう。ところが、どうも、「丸投げ」体制が見え隠れする。これでは、市民の負担が大きく、継続は難しい。こうした資源を自治体としてどう活用するか、第三者的なオブザーバーに相談しながら遂行していけるといいのと思う。例えば、子どもの参画を考えても、できるなら質の高い参画をめざしたい。そうしたことの専門的なハウツウの取り込みをどこから行うか、そうした舵取りが必要と思う。(市民委員)

- ・学校がもつ種々の資産の有効活用(教育委員会との交流等)(審議会)
- ・福祉・医療・教育に関する、総合的視野に立った機構の創設(見直し)(審議会)
- ・5ブロック内のコミュニケーション手段の確立(審議会)

(今後の方向性)
市民参加、子どもの意見の反映